

神崎 由紀

首都大学東京大学院人間健康科学研究科 博士後期課程

保健・福祉サービス利用が困難な高齢者の継続支援に関する看護実践の解明とその構造化

本研究は、保健・福祉サービスの利用が困難な高齢者に対して、地域で活動している看護職が行う、継続的な看護実践の解明とその構造化を行うことを目的とした。

文献検討と地域包括支援センター保健師へのインタビューを行った結果、サービス利用が困難な要因は、「他者との関係形成が難しく、専門職の介入を拒む」「高齢者が長年にわたって形成してきた慣習や価値観によりサービスを利用することに消極的」「生活上の心配やそれに対して不適切な対処行動をとっているが、使える制度がない」であった。看護職は、地域の多職種や住民から紹介や相談という方法で把握した高齢者を、《理由をつけてさりげなく訪問する》《状況に応じた頻度で連絡する》こと、訪問や電話で《高齢者のことを気にかけていることを伝える》こと、《支援のタイミングを待つ》《本人の支援を受ける意思を確認する》《事業への参加を勧める》ことを繰り返し行い、高齢者の気持ちに働きかけながら継続的に支援していることが明らかになった。